

# 高等学校（生物基礎×保健体育）学習指導案

日 時 令和4年12月12日（月）2校時  
実施学級 甲南高等学校1年7組  
実施場所 1年7組教室  
授業者 大田 慎也（生物基礎）  
平田 直樹（保健体育）

## 1 単元名

「ヒトの体内環境の維持－免疫のはたらき－」（数研出版「生物基礎」）  
「性感染症・エイズとその予防」（大修館書店「現代高等保健体育」）

## 2 単元設定の理由

### (1) 単元観

本単元では、①からだに異物を排除する防御機構が備わっていること、②免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることを理解させることがねらいである。実体験と関連づけながら理解を深め、学びが日常生活に活用できることを意識づけさせる必要がある。今回は「エイズ」を題材に展開する。

### (2) 生徒観

明るく元気な生徒が多い。授業中は静かで落ち着いている。教師の問いかけに対して考え学び合う雰囲気はあるが、積極性に欠ける面もあり、発言に対しては控えめである。

### (3) 指導観

「エイズ」を題材に生物基礎の視点から、その原因や仕組みを考えさせ、免疫と病気との関係を理解させるとともに、保健体育の視点からは、「エイズ」に関して社会的にどのような取り組みがなされているか調べることで、理解を深めさせたい。

## 3 本時の指導目標

- ・ HIV がヘルパーT 細胞に感染し破壊することで、健康なヒトでは発症しないような感染症に発症しやすくなることを理解する。
- ・ 各市町村や企業が行っている「エイズ」に関する取り組みについて調べることで「エイズ」に対して理解を深める

## 4 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・ エイズについて、その原因や仕組みを理解する。</li><li>・ エイズについて、基礎的事項を理解し、個人及び社会の対策について理解する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ エイズ患者が、健康なヒトでは発症しない感染症を発症しやすい原因について、免疫の視点から説明することができる。</li><li>・ 社会的な取り組みについて要点をまとめ、発表することができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 免疫のはたらきや免疫と病気との関係に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li><li>・ 積極的にグループワークに取り組み、自分の役割を果たすことができる。</li></ul>

## 5 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	○エイズについての確認  ○流れの確認	・エイズについて確認する。  ・本時の流れを確認する。	・ロイロノートのテスト機能を使い、世界エイズデーについて確認させる。 ・グループでエイズについて確認させる。 ・本時の流れを説明する。	【知識・技能】
展開 42分	「生物基礎」 ○エイズの原因・仕組みを考える	・なぜ、エイズ患者は、健康なヒトでは発症しない感染症を発症しやすくなるのか、原因を考える。 ・グループで話し合い、ロイロノートを使い出した意見を提出する。	・グループで話し合わせる。 ・ロイロノートで考えを提出させる。  ・ロイロノートで回答を共有させ、理解を深めさせる。	【知識・技能】 【主体的に学習に取り組む態度】  【思考・判断・表現】
	「保健体育」 ○エイズに対する個人の取り組みについて（復習）  ○エイズに対する社会的な取り組みについて調べる	・個人の取り組みについて過去の保健の授業の振り返りをする。  ・社会的にどのような取り組みがなされているのか調べて、意見をまとめ、発表する	・グループで意見を出し合い、確認させる。  ・タブレット等を使い、各市町村や企業がどのような取り組みをしているか、調べさせる。（国内だけでなく国外にも注目させる）  ・調べた内容を発表用にまとめ、発表させる。	【知識・技能】  【主体的に学習に取り組む態度】  【思考・判断・表現】
まとめ 3分	まとめ・評価	・振り返りを記録する。	・振り返りを記録させる。	

## 6 目標達成のために工夫した点

- ・ロイロノートの提出の機能を使い、全員が考えを示せるようにした。さらに、回答を共有することで考えの広がりや深まりが生まれるようにした。
- ・発言力の向上や表現力や思考力を身につけさせるために、各市町村及び企業での取り組みについてグループで調べた内容を代表者に発表させる場面を設定した。